

せいけん  
詩集

第二十七篇

作：近藤せいけん

## 「道祖神」

街角に静かに たたずむ 道祖神

小学生の子供達が 前を

行き過ぎる 感心に 一人の子が

手を合わせる 他の子が

「何してるの いっちやうよ 早くして」

「待つてよ すぐ行くから」

いつの時代からか ずうっと そこにあった

名も知れない 忘れられた 石の彫り物

たまに 人に気がつかれる

「あら こんな所に 道祖神がある」

「今まで 知らなかった あら 発見」

それで終わりである

時代 時代を越えて ただ たたずむ

慈愛に満ちて 優しく ただ たたずむ

人が気づこうと 気がつかまいと

人びとの 暮らしを見つめる